

環境とSNS

鳥取県鳥取市立鹿野学園 8年 樹下 空慈



「人を作るのは意志や思想ではなく環境である。」という言葉がある。誰が言ったかは知らないが、僕はこの言葉が好きだ。人は自分の考えで行動を決めているように思えるが、実際は環境に大きく左右されるという考え方だ。例えば、自分がどう意志を持つかに関わらず、周りに厳しくされた人と、周りに優しくされた人では、優しくされた人の方が他人に優しく接しやすいというふうだ。

そして、これは犯罪や非行にもつながっていくと考える。現代では、特にSNSは見る人もやる人も簡単に環境が変わってしまう。とても簡単にさまざまな情報を知ることができるというメリットがある反面、自分とは違う自分より裕福な人、幸せな人の生活を見て、自分と比べ落ち込んでしまったり、他愛のない暴言によって、心に傷を負ってしまったりする。

インターネットの世界では相手の顔を見ることもなく、取り締まりもそこまで厳しい訳ではない。そうした環境が、人の悪口を作り出し、その悪口が、また別の人の心を病ませ、その人がストレス発散のために、誰かの悪口を言ってしまったりする。そうした連鎖によって、結果的に、誰かが犯罪を犯してしまう環境を作り出す。犯罪の動機はいくつかある。お金がない、もっとお金がほしい、復讐、心の乱れで魔が差してしまったなどだ。この心の乱れを作るのが、インターネット、特にSNSではないかと思う。

また、SNSは、人間の自己顕示欲を奮い立たせてしまう。自己顕示欲は自分を認めてほしい、もっと目立ちたいというような欲のことだ。なぜこの欲がSNSで強くなるかということ、それは他人の生活を見ることができ、さらに自分の生活をアピールすることができるからだ。他人の生活を見て自分と比べ、落ち込み、自分をみんなにアピールするために躍起になってしまう。

そして、そのアピールの方法が近年問題になっていて、犯罪に当たってしまうことがある。有名な例を挙げると、自分がバイトしている店で、お客さんに出す料理の食材をゴミ箱に捨て、その様子をツイッターなどにあげるという事件だ。これは立派な犯罪であり、SNSで目立ちたいというのも動機の一つであったのではないかと考えられる。

このように、悪口を言うことにより、自分を慰め、その悪口が連鎖してしまうこと、自己顕示欲を刺激し、目立つため、犯罪を犯してしまうこと、この二点から、SNSは使い方を間違えると大量の犯罪を作ってしまう危険性がある。では、これを防ぐためにはどうすればいいだろう。

一番簡単なのは、情報通信機器、つまり、スマホなどを全員がたたき壊し、もう持たないことだ。そうすればSNSどころかインターネットは誰にも使われなくなるが、それは現実的ではない。今は情報化社会と言われるほど、情報が大切で、それを取り入れる方法の一つにインターネットがある。それがなくなると、人々は不便になってしまう。ではどうすればいいのか。僕は最初に述べた環境作りが大切だと思う。だが、一人ひとりが気をつけましょうなどというのはきれい事だと考える。もう少しSNSの警備を厳重にし、情報の扱い方に気をつけるために、スマホを持ち、SNSを自由に使える年齢をもう少し引き上げるといいと思う。

SNSは、多くの犯罪の元になる環境を作る反面、大変便利なものである。うまく使いこなし、人が犯罪、非行に走らないよう、豊かな社会を作っていきたい。